

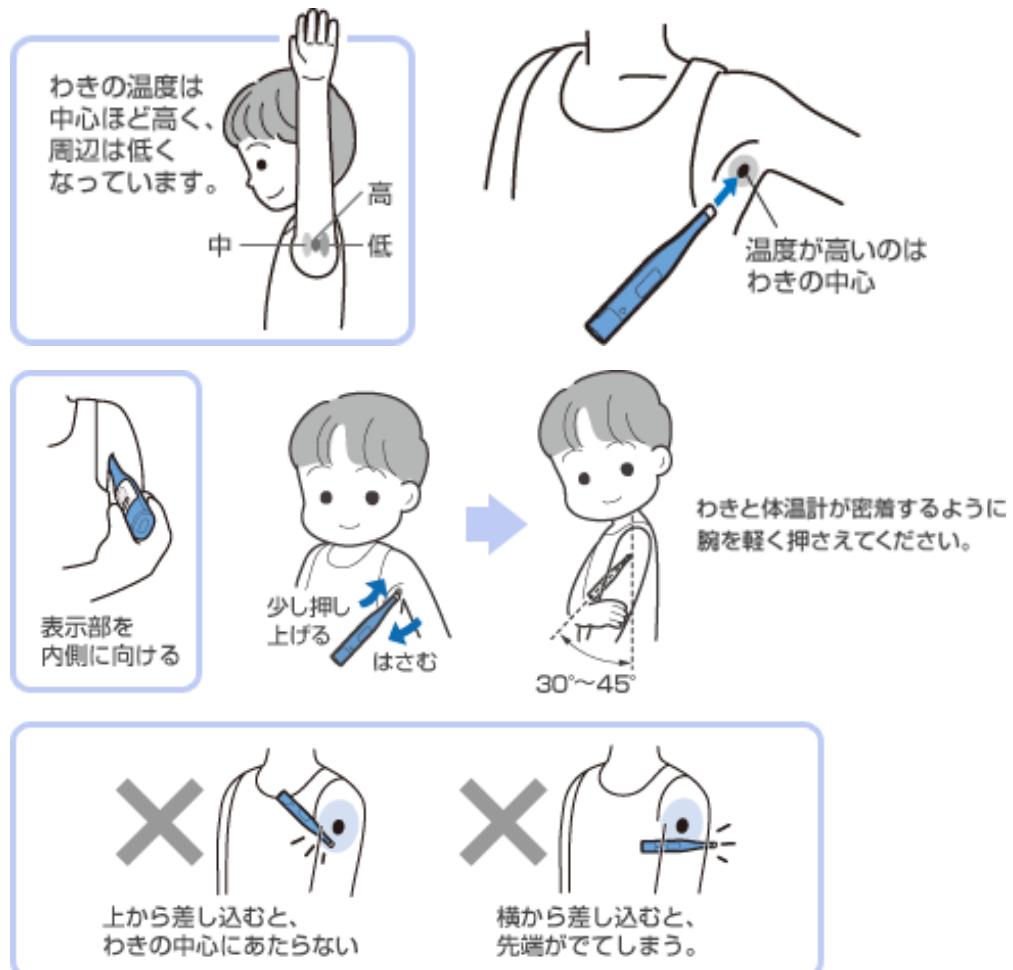
5 がつ

いむだより

新年度が始まって1か月がたちました。連休が終わると気温も徐々に上昇し、精神的に・身体的に体調に変化が出ることがあります。小さなサインを見逃さないようにして、過ごしましょう。

たいちょうかんり とうしょまえ けんおん きょうりょく
体調管理のため登所前の検温にご協力ください

コロナ禍で定着している「朝の検温」です。利用者の皆さんにはご協力いただき、早め早めに体調の変化を確認できています。(登所後には毎日作業所で検温を行っています。)利用者の中には自分で不調を伝えられない、言葉に出せない方もおり、登所前の体温を知ることが大切です。登所前に検温していただくと大変ありがとうございます。

ただ けんおん ほうほう
正しい検温の方法

きず 傷について

これまでの切り傷やすり傷の治療法は傷口を乾燥させて、かさぶたを作ることでした。しかし最近では、傷口を乾かさない「温潤療法」が主流になっています。傷口に潤いを保たせたまま密閉する方法で、消毒薬は使用しません。

温潤療法のポイントは何でしょう？

ハイドロコロイドという素材を使った傷パッドなどを使用します。従来の絆創膏は、ガーゼで傷口を保護すると同時に滲出液も吸い取ってしまい、傷口修復のために働いてくれるものを奪い取っていました。温潤療法で使うハイドロコロイドは、滲出液にふれるとジェル状に変化して、白く膨らんだ状態になります。この滲出液を充分に含んだジェル状のパッドが傷口を保護してくれるので、傷からの回復も早まります。また、かさぶたが作られにくいため、傷跡も残りにくいです。

なぜ、消毒しないほうがいいのですか？

傷ができると消毒したくなりますが、消毒薬には悪い菌を攻撃すると同時に、傷を治そうとする細胞や滲出液にも攻撃をかけます。そのため、消毒薬を使わずに、水道水で傷口についた汚れをていねいに洗い流します。(右けんは使用しません) そうすることで、滲出液の働きを阻害することなく、傷口の修復をしてもらうことができます。

温潤療法が不向きな傷もありますか？

温潤療法は細胞が本来持っている「傷を修復する力」をサポートするものです。そのため細菌感染のリスクが高い、①糖尿病による血行障害などを持つ人、②持病で抵抗力が弱まっている人は使用を控えてください。また、ペットにかまれた傷、深い刺し傷などの場合は細菌に感染しているおそれがあるので、医療機関に相談しましょう。

温潤療法による皮膚の再生

温潤療法は、皮膚組織の再生がスムーズに行われ、傷跡が残りにくいです。

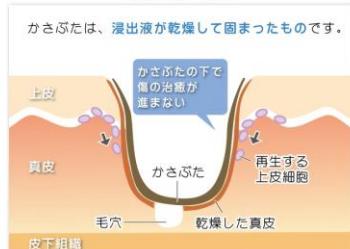
かさぶたは作らないほうが良い

表皮は滲出液の中で細胞が増殖・移動し再生されます。

かさぶたができてしまうと、その活動は妨げられ、細胞が死んでしまうこともあります。

なめらかな表皮を早く再生するためには滲出液を保ち、かさぶたを作らないようにします。

乾かした場合



温潤療法



監修：おゆみ野皮フ科 院長 中村 健一